

(19)



JAPANESE PATENT OFFICE

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11) Publication number: 2001261131 A

(43) Date of publication of application: 26.09.01

(51) Int. Cl

B65G 1/137
G06F 17/60

(21) Application number: 2000081118

(71) Applicant: FUJITSU LTD

(22) Date of filing: 23.03.00

(72) Inventor: KOJIMA TOSHIYASU

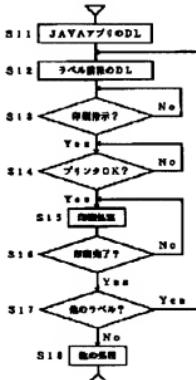
(54) MANAGEMENT SYSTEM FOR PHYSICAL
DISTRIBUTION INFORMATION

(57) Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To lighten a burden on a supplier such as a maker or a wholesaler, and to keep quality of a price tag, a PD label or the like attached to a commodity uniform even in the case that the supplier attaches the label or the like.

SOLUTION: In this management system, a server in a physical distribution information management center is accessed from a supplier terminal via the Internet, a Java application or a Java applet is downloaded (step S11), and necessary label information is downloaded (step S12). When it is decided that a label printer is normal (step S14), a printing process is executed (step S15).

COPYRIGHT: (C)2001,JPO



(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開2001-261131

(P2001-261131A)

(43)公開日 平成13年9月26日(2001.9.26)

(51)Int CL¹
 B 65 G 1/137
 G 06 F 17/60

識別記号
 Z E C
 1 1 6

F I
 B 65 G 1/137
 G 06 F 17/60

Z E C A 3 F 0 2 2
 1 1 6 5 B 0 4 9

テ-マ-ト(参考)

(21)出願番号 特願2000-81118(P2000-81118)
 (22)出願日 平成12年3月23日(2000.3.23)

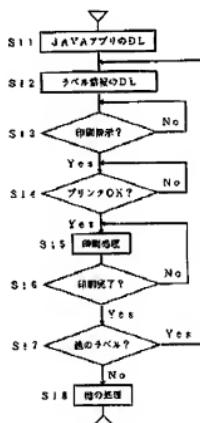
(71)出願人 000005223
 富士通株式会社
 神奈川県川崎市中原区上小田中4丁目1番
 1号
 (72)発明者 沢島 利泰
 広島県広島市中区鏡西町8番18号 株式会
 社富士通中四システムズ内
 (74)代理人 100064145
 弁理士 小野 由己男 (外2名)
 Fターム(参考) 3R022 3M08 3M42
 5B049 5A01 5A02 5B11 5B31 5C01
 5C05 5C27 5D01 5E00 5F02
 5F09 5G02 5G04 5G07 5G08

(54)【発明の名称】 物流情報管理システム

(57)【要約】

【課題】 商品に付される箱札やPDLラベルなどを
 メーカーや卸業者などの発注先で付ける場合であっても発
 注先における負担を軽減し、これらラベルの品質を均質
 に維持することを可能とする。

【解決手段】 発注先端末において物流情報管理センタ
 にあるサーバにインターネットを介してアクセスして、
 JAVAアプリケーションまたはJAVAアプレットを
 ダウンロードし(ステップS11)、必要なラベル情報
 をダウンロードし(ステップS12)、ラベルプリンタ
 が正常であると判断した場合(ステップS14)、印刷
 处理を実行する(ステップS15)。



【特許請求の範囲】

【請求項1】商品の発注を行う際の発注情報および前記商品の納入時に必要なラベル情報を発注元から受け付ける発注情報受付手段と、前記発注情報およびラベル情報を管理する発注情報管理手段と、前記発注情報およびラベル情報を対応する発注先に送信する発注情報送信手段と、を備える物流情報管理システム。

【請求項2】前記発注情報送信手段は、前記発注先のローカルプリンタに前記ラベル情報を基づくラベル印刷を実行させるラベル印刷機能を備える。請求項1に記載の物流情報管理システム。
10

【請求項3】前記ラベル印刷機能は、インターネットウェブからダウンロード可能なラベル発行アプリケーションである、請求項2に記載の物流情報管理システム。

【請求項4】前記ラベル印刷機能は、インターネットウェブから実行可能なJAVAアプレットである。請求項2に記載の物流情報管理システム。
20

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、小売業者などから商品発注を行う際の発注情報および納品時に必要となるラベル情報を管理し、メーカーや卸業者などの出荷側が納品する際に必要となる情報を送信する物流情報管理システムに関する。

【0002】

【従来の技術】量販店、百貨店、その他の小売業者では、商品の納入時にその商品に値札を付けた状態で納入することを、メーカーや卸業者に要求する場合がある。また、メーカーや卸業者が納品を行いう際には、搬送する商品の中身を識別するためのP.Dラベルや荷札などをケースに貼り付ける必要があり、このようなラベルの作成も納入側で行っている。

【0003】

【発明の効果】商品に付ける値札やゲ

ラベルが無駄になってしまい、
【0004】また、発注品の値札やP.Dラベル
ことが考えられる。こ
注元から値札やP.Dラ
ベルプリンタなどにより
アルによりラベル情報を
などで印刷することも
ように値札やP.Dライ
を発行するためのシ
の導入費用とハード:
くる。また、この場
多めに作成して在庫
する費用、保管費用
大きくなる。

【0005】値札を
アウトが異なる
する必要がある。シ
トを変更したり、
必要がある。この
する費用が発注先
ルプリンタやラベ
の負担となってく
【0006】商品
のメーカーや卸業者
必要があり、レ
するために説明
た。発注先が複
にラベルの品質
荷札関連では、
場合に荷主は荷
社側で荷札発行
刷を開発した。

30 【0007】す
のためシステ
費用がかから
ー、ハサウエ

対応する発注先に送信する発注情報送信手段とを備える。

【0009】ことで、発注情報送信手段は、発注先のローカルプリンタにラベル情報に基づくラベル印刷を実行させるラベル印刷機能を備える構成とすることができる。ラベル印刷機能は、インターネットウェブからダウンロード可能なラベル発行アプリケーションとすることができる、インターネットウェブから実行可能なJAVAアプレットとすることも可能である。

【0010】

【明細の実施の形態】（物流情報管理システムの概念）各種物資情報を管理するシステムの概念を図1により説明する。物資情報管理センタ1は、各種マスタ情報と統括的管理するものであり、各種マスタ情報と発注や請求に関するトランザクション系のデータからなるデータベース、ラベル発行システム、請求情報処理システムなどを備えている。

【0011】物流情報管理センタ1は、公衆回線や専用回線を通じて加盟店や取扱可能となっている。特に、商品の発注情報や商品の配送時に必要となるラベルに関するラベル情報、請求情報などの送受信を発注元2および発注先3との間に備えるようになっている。また、運送会社4との間でも各種情報の送受信が可能となっている。

【0012】発注元2は、たとえば、書店、百貨店、専門店、ロードサイドショップなどの小売業者である。発注元2から物流情報管理センタ1に対しては、商品の配送時に必要となるラベル情報、各種マスタ情報、商品の発注情報、POS情報、支払情報などである。また、物流情報管理センタ1から発注元2に送信される情報としては、発注先3から送信されてくる出荷品情報、請求情報、在庫情報、新製品情報などがある。

【0013】発注先3は、書店のメーカー卸業者などである。物流情報管理センタ1から発注先3に対しては、ラベル発行システムを通じてラベル情報を送信しラベル発行を行う他、発注元2から送信されてくる発注情報、POS情報、支払情報、運送会社4から送信されてくる貨物追跡情報などが送信される。発注先3から物流情報管理センタ1に対しては、送り状情報、出荷品情報、請求情報、新製品情報などが送信される。

【0014】物流情報管理センタ1は運送会社4に対して、発注先3から送信されてきた送り状情報、発注元2から送信された支払情報などを送信される。また、運送会社4から物流情報管理センタ1に対しては、貨物追跡情報、請求情報などを送信される。発注元2から発注先3に対して商品の発注を行う際には、物流情報管理センタ1に発注情報を送信して登録する。鍵札をPDLラベルを発注先3に付けさせる場合には、各種ラベル情報やそのラベルのマスタ情報を発注情報とともに物流情報管理センタ1に送信して登録する。

【0015】発注元2から物流情報管理センタ1にPOS情報が定期的に送信されるような場合には、このPOS情報に基づいて物流情報管理センタ1で発注情報を作成することも可能である。物流情報管理センタ1で作成された発注情報を伴うラベル情報が必要な場合には、予め発注元2から各商品についてのラベル情報を登録しておくか、発注元2からPOS情報を送信する際にラベル情報を一緒に送信するか、物流情報管理センタ1から発注元2に対して問い合わせを行って、発注元2にラベル情報の送信を行わせるなどの方法が考えられる。

【0016】物流情報管理センタ1では、発注情報で指定されている発注先3にその発注情報を送信し、ラベル情報が存在する場合にはラベル発行システムを用いてラベルの発行を行う。発注元2から物流情報管理センタ1に送信されてきたPOS情報をそのまま発注先3に送信して、発注先3側で商品供給を計画する場合も考えられる。この場合にも、ラベル情報が必要である場合には、物流情報管理センタ1から発注先3に対してラベル情報を送信してラベルの発行を行う。

【0017】発注先3では、ラベル情報を利用しラベルを印刷すること以外に、手動入力による鍵札やPDLラベル発行を行い、ラベル情報を新規に作成することができる。

発注元2および発注先3では、鍵札に伴う荷札ラベルを手動入力あるいは荷札情報より発行することができる。

物流情報管理センタ1ではこの荷札情報より送り状情報を作成することができる。

【0018】発注情報やPOS情報を基づいて発注先3から商品の発送を行う際には、物流情報管理センタ1は発注元3からの送り状情報を、出荷品情報を受信し、送り状情報を運送会社4に送信するとともに、出荷した商品についての出荷品情報を発注元2に送信する。発注先3から貨物追跡情報の要求があった場合には、運送会社4から貨物追跡情報を受信し、これを発注先3に送信する。

【0019】また、運送会社4からの運賃に関する請求情報を受信し、発注元2または発注先3のいずれかの請求先に対して送信する。通常は、発注先3に運賃に関する請求情報を送信し、発注先3側において運賃に関する請求情報を商品に関する請求情報を併せて請求情報を作成する場合が多いと考えられる。物流情報管理センタ1では、発注元3から送信される請求情報を発注元2に送信する。

【0020】さらに、物流情報管理センタ1では、発注元2からの商品についての支払情報を受信し、この支払情報を発注先3に送信する。発注元2から送信されてくる支払情報のうち、運賃に関する支払情報については運送会社4に送信するように構成できる。また、物流情報管理センタ1では、発注先3側における商品の在庫情報や新製品情報をどのように受信し、発注元2に対してこれら情報を提供するように構成できる。

【0021】配達される商品は、発注元2からの発注情報やPOS情報に基づいて発注元3から発送され、運送会社4のトラックなどで発注元2の店舗に直搬配達されるか、あるいは発注元2で所有している配送センタに配送される。

【概略構成】物流情報管理システムの概略構成を図2に示す。

【0022】物流情報管理センタ1には、発注情報やラベル情報を管理するデータベースを構えるサーバ11が設けられている。サーバ11は、発注元2から送信されてくる発注情報、ラベル情報、マスタ情報などに基づいてラベルを発行するラベル発行システムと、請求情報、支払情報などに基づいて請求情報を処理するための請求情報処理システムとを備えている。

【0023】サーバ11は、ルータ12を介して公衆回線と接続可能となっており、インターネットなどを通じて発注元2、発注元3、運送会社4などの端末とデータの送受信ができるよう構成されている。また、物流情報管理センタ1にはサーバ11のメンテナンス作業を実行したり、各種データの入力を行うための端末13を備えている。

【0024】発注元2には、モデム、TA、ルータなどを介して公衆回線に接続可能な発注元端末21を備えている。この発注元端末21は、通常のパーソナルコンピュータ、ワープロステーションなどで構成されており、サーバ11に対してインターネット接続することが可能なウェブブラウザを備えている。また、この発注元端末21でPOS情報を管理し、このPOS情報をサーバ11に定期的に送信するように構成することもできる。

【0025】発注元3には、モデム、TA、ルータなどを介して公衆回線に接続可能な発注先端末31を備えている。この発注先端末31も、発注元端末21と同じくパーソナルコンピュータ、ワープロステーションなどで構成することができ、サーバ11に対してインターネット接続することが可能なウェブブラウザを備えている。発注先端末31は、RS-232Cなどによりラベルプリンタ32が接続されている。このラベルプリンタ32は、サーバ11から送信されてくるラベル情報をに基づいて、価格、PDラベル、荷札などラベルに印字を行うものである。

【0026】運送会社4は、モデム、TA、ルータなどを介して公衆回線に接続可能な発注先端末41を備えている。この発注先端末41も、発注元端末21と同じくパーソナルコンピュータ、ワープロステーションなどで構成することができ、サーバ11に対してインターネット接続することが可能なウェブブラウザを備えている。

【サーバ基本動作】サーバ11の基本動作を図3のフローチャートに蓄つて説明する。

【0027】ステップS1では、発注元2からの発注情報を受けたか否かを判別する。発注元2の発注端末2

1からのアクセスがあり、発注情報が送信されてきた場合にはステップS2に移行する。ステップS2では、送信されてきた発注情報を蓄つて発注情報ファイルを更新する。ステップS3では、発注元2からのラベル情報を受け付けたか否かを判別する。発注元2の発注情報に伴って商品の発送時に必要となるラベル情報を送信されてきた場合には、ステップS4に移行する。ステップS4では、送信されてきたラベル情報をにしたがってラベル情報ファイルを更新する。

【0028】ラベル情報ファイルは、マスター系ファイルとランサクション系ファイルから構成される。マスター系ファイルは、利用者マスタ、小売マスタ、小売店舗マスタ、小売センターマスタ、小売取引コードマスター、商品分類マスター、商品マスター、カラーマスター、サイズマスター、運送会社マスターなどからなる。また、ランサクション系ファイルは、種札ファイル、PDラベルファイル、荷札ファイル、送り状ファイルなどからなる。

【0029】利用者マスターは、図4に示すように、利用者コード欄、利用者名欄、住所欄、電話番号欄、担当者欄、取引開始日欄、パスワード欄などを備えている。小売マスターは、図5に示すように、小売コード欄、名称欄、使用鍵孔欄、使用PDラベル欄、小売固有コード欄などを備える。小売店舗マスターは、図6に示すように、小売コード欄、店コード欄、店名欄、部門欄、ディビジョン欄、グループコード欄、センターコード欄、プロックコード欄、小売店舗固有コード欄などを備える。小売センターマスターは、図7に示すように、小売コード欄、センターコード欄、センター名欄、センター固有コード欄などを備える。小売取引コードマスターは、図8に示すように、小売コード欄、利用者コード欄、取引先コード欄、取引先名欄、取引先固有情報欄などを備えている。商品分類マスターは、図9に示すように、小売コード欄、部門コード欄、ディビジョン欄、商品コード欄などを備えている。商品マスターは、図10に示すように、小売コード欄、商品コード欄、JANコード欄、取引先品番欄、カラー名欄、サイズ欄、サイズ名欄、下代欄、上代欄などを備えている。カラーマスターは、図11に示すように、小売コード欄、カラーコード欄、カラー名欄などを備えている。サイズマスターは、図12に示すように、小売コード欄、サイズコード欄、サイズ名欄などを備えている。運送会社マスターは、図13に示すように、運送会社コード欄、名称欄、使用荷札種類欄、使用送り状種類欄などを備えている。

【0030】種札ファイルは、図14に示すように、利用者コード欄、小売コード欄、取引先コード欄、部門欄、クラス欄、発注コード欄、表示先箇欄、取引先品番欄、メーカー欄、シーズン欄、納入年月欄、カラー欄、カラー名欄、サイズ欄、サイズ名欄、枚数欄などを備えている。PDラベルファイルは、図15に示すように、利用者コード欄、小売コード欄、小売店コード欄、納入先

商 品部門欄、ディビジョン欄、グループ欄、商品分類欄、取引先欄、発行日欄、領口番などを備えている。商札ファイルは、図16に示すように、利用者コード欄、荷受け先欄、荷送り先欄、メーカー欄、店コード欄、運送便欄、扱便欄、元/着欄、出荷日欄、配達日欄、両合番号欄、個数欄、備考欄、処理日欄などを備えている。送り状ファイルは、図17に示すように、利用者コード欄、荷受け先欄、荷送り先欄、閉合番号欄、元/着欄、発送日欄、配達日欄、個数欄、枚数欄、重量欄、備考欄などを備えている。

【0031】ステップS1では、発注情報ファイルの情報をに基づいて発注依頼を行うか否かを判断する。発注情報ファイル中のデータに発注先3への発注が完了していないものが含まれているような場合にはステップS6に移行する。ステップS6では、発注情報に基づいて発注先3への発注依頼を行う。ステップS7では、発注先3へのラベル発行を行うか否かを判断する。発注先3への発注情報に伴うラベル情報がある場合や発注先3からラベル発行の要求があった場合には、ステップS8に移行する。ステップS8では、発注先3に対するラベル発行処理を実行する。ステップS9では他の処理を実行する。

【0032】〔ラベル発行〕

〈JAVAアブリケーション〉ラベル発行は、ウェブのJAVAアブリケーションにより実行することが可能である。JAVAアブリケーションは、物流情報管理センターのサーバ1内またはアブリケーションのダウンドード用サイトなどに用意されており、発注先端末31からの指示によりダウンロードすることが可能となっている。発注先端末31においてラベル発行のためのJAVAアブリケーションをダウンロードした後、サーバ1に保管するラベル情報をダウンロードして、ラベルプリント32にセットされたラベルに印刷を実行する。

【0033】ラベル発行のためのJAVAアブリケーションを用いて、発注先3においてラベルを作成する際の発注先端末31の動作を図18のフローチャートを用いて説明する。まず、ステップS1において、インターネット・ネット・ウェブ・ブラウザによりインターネット接続し、サーバ1のウェブサイトにアクセスしてJAVAアブリケーションをダウンロードする。

【0034】ステップS1では、ダウンロードしたJAVAアブリケーションを起動し、ラベル情報をダウンロードする。ここでは、商札ファイル、PDFラベルファイル、商札ファイルのファイルから必要なラベル情報を選択してダウンロードし、必要であれば発注先端末31の画面上にレイアウトを表示する。さらに、ラベルプリンタ32にセットすべき用紙種類と必要な枚数を表示し、ラベルプリンタ32への用紙のセットを促す。

【0035】ステップS13では印刷指示がなされたか否かを判断する。発注先端末31の画面上において印刷

指示ボタンが操作されるか、印刷指示のコマンドが入力された場合には、ステップS14に移行する。ステップS14では、ラベルプリンタ32が使用可能であるか否かを判別する。ラベルプリンタ32が使用不能の場合としては、電源オフの状態である場合、他のジョブにより使用中である場合、シャムや用紙切れなどの場合が考えられる。このようなラベルプリンタ32が使用不能である場合には、発注先端末31の画面上にその旨の表示を行い、印刷指示が再度入力されるのを待機する。ラベル

10 プリンタ32が使用可能である場合には、ステップS15に移行する。

【0036】ステップS15では、ダウンロードしたラベル情報を基づいて、ラベルプリンタ32にラベル印刷を実行する。ステップS16では、必要とする枚数のラベル印刷が完了した否かを判断する。そのラベルの印刷が完了していないと判断した場合にはステップS15に移行してさらにラベル印刷を実行し、必要な枚数のラベル印刷が完了したと判断した場合には、ステップS17に移行する。

【0037】ステップS17では、他の機能のラベル印刷を行うか否かを判断する。他の機能のラベル印刷が必要である場合には、ステップS12に移行して以下のステップを繰り返す。ステップS18では他の処理を実行する。

（JAVAアブレット）ウェブサイトのページにラベル印刷用のJAVAアブレットを埋め込んでおき、発注先端末31からこのJAVAアブレットが操作されると、ラベルプリンタ32によるラベル印刷を実行できるよう構成することができる。現状のJAVAアブレットでは、RS-232C制御ができないため、RS-232Cで接続されたローカルプリンタを制御することができない。そのため、プリンタ制御用のドライバソフトをJAVAアブレットに組み込むことで、ラベル印刷が可能となる。たとえば、JAVAアブレットのプログラム記述中に、「CALL “ドライバソフト” パラメータ領域」のコマンドを挿入する。パラメータ領域には、ラベル印刷データを構造してセットし、ドライバソフトをCALLするように構成すれば、JAVAアブレットからラベルプリンタ32を制御することが可能となる。

40 【0038】ドライバソフトは、各種ラベルプリンタに対応させて用意しておき、発注先端末31で接続されているラベルプリンタ32に最適なドライバソフトを選択できるように構成できる。JAVAアブレットを用いてラベル印刷を行なう場合の発注先端末31における動作は、図18のステップS11でJAVAアブリケーションをダウンロードすることによってJAVAアブレットをダウンロードすること以外は、JAVAアブリケーションを用いた場合と見かけ上は同じである。

【0039】JAVAアブレットは、発注先端末31のウェブ・ブラウザ画面上で指示される内容にしたがって

て、サーバ11にラベル情報を要求し、ラベル情報をサーバ11側から受け取った後、ドライバソフトに制御を移行する。ドライバソフトは、JAVAアプレットからのラベル情報に基づいて、ラベルプリンタ32を制御し、ラベル印刷を実行する。このラベル印刷の動作を、図19に示すようなドライバソフトを中心としたフローチャートを用いて説明する。

【0040】JAVAアプレットは、偽札、PDラベル、画札などのラベル情報をサーバ11から受け取ってこれを所定の領域にセットし、ドライバソフトに制御を移行する。ステップS21では、ラベルプリンタ32に對してステータス情報を要求することによってローカルデバイスの状態のチェックを行う。ステップS22では、ラベルプリンタ32から送信されてくるステータス情報を受信する。

【0041】ステップS23では、受信したラベルプリンタのステータス情報をにより使用可能な状態であるか否かを判断する。ステータス情報により、ラベルプリンタ32が電源オフ、他のジョブによる使用中、ジャムや用紙切れなどの使用不能である場合には、ステップS24に移行する。ステップS24では、ラベルプリンタ32のステータス情報を監視するモードに入る。ステップS25では、所定の時間が経過したか否かを判断する。使用不能の状態が所定時間継続しているような場合には、ステップS26に移行する。ステップS26では、タイマーオーバーの信号をJAVAアプレット側に送信する。これに基づいて、JAVAアプレットでは、プリンタ使用不可である旨の表示を発注先端末31の画面に表示してこの処理を終了する。

【0042】ステップS23において、受信したラベルプリンタのステータス情報を正常であると判断した場合には、ステップS27に移行する。ステップS27では、JAVAアプレットによりサーバ11から受け取ったラベル情報をラベルプリンタ32に出力する。ラベルプリンタ32では、ドライバソフトから出力されるラベル情報に基づいて、セットされた用紙にラベル印刷を行う。

【0043】ステップS28では、ラベルプリンタ32から送信されてくるステータス情報を取得する。このステータス情報は、ラベルプリンタ32が正常にラベル印刷を終了したか否かを示すものであって、用紙ジャムの発生、用紙切れ、トナーもしくはインク切れなどによって印刷が完了しなかった場合に、その旨の情報が送信されてくる。

【0044】ステップS29では、ステップS28で取得したステータス情報が、正常に印刷を終了したことと示すものであるか否かを判断する。ラベルプリンタ32のステータス情報が、用紙ジャムの発生、用紙切れ、トナーもしくはインク切れなどによって印刷が完了しなかったことを示すものである場合には、ステップS30に

移行する。ステップS30では、ラベルプリンタ32からのステータス情報に基づいて、対応するエラー情報をJAVAアフレットに返す。JAVAアフレットは、このエラー情報をに基づいて印刷異常があつた旨の表示を発注先端末31上に表示する。

【0045】ステップS29において、ラベル印刷が正常に終了したものと判断した場合には、ステップS31に移行する。ステップS31では、ラベル情報の出力が完了したか否かを判断する。印刷する必要のあるラベル情報がないと判断した場合には、ステップS32に移行する。ステップS32では、印刷が正常に終了した旨の信号をJAVAアフレット側に送信し、処理を終了する。また、ステップS31において印刷すべきラベル情報が他にあると判断した場合には、ステップS33に移行する。ステップS33では、次のデータをラベルプリンタ32に出力準備を行い、ステップS21に移行する。この後、上記の手順を繰り返してラベル情報の印刷を実行する。

【0046】【(他の実施形態)】発注元2から送信されるPOS情報を発注先3に送信し、発注先3側でPOS情報を基づいて納品を行うように構成することも可能である。この場合も、物流情報管理センター1において、必要となるラベル情報を管理し、発注先端末31側にこのラベル情報を送信してラベル発行を行なうように構成できる。

【0047】

【発明の効果】本発明によれば、商品納入時に必要なラベル情報を、発注先において遅延得ることができ、ラベルの在庫を抱えることなく、ラベルを管理するためのコストを削減できる。また、発注元においては、異なる発注先であってもラベルの品質を均一にすることが可能となり、ラベルに問題するトラブルを避けることができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の概念構成図。

【図2】本発明の概念構成図。

【図3】サーバの基本動作を示すフローチャート。

【図4】利用者マスタファイルの概念説明図。

【図5】小売マスタファイルの概念説明図。

【図6】小売店舗マスタファイルの概念説明図。

【図7】小売センターマスタファイルの概念説明図。

【図8】小売取引先コードマスタファイルの概念説明図。

【図9】商品分類ファイルの概念説明図。

【図10】商品マスタファイルの概念説明図。

【図11】カラーマスタファイルの概念説明図。

【図12】サイズマスタファイルの概念説明図。

【図13】運送会社マスタファイルの概念説明図。

【図14】偽札ファイルの概念説明図。

【図15】PDラベルファイルの概念説明図。

【図16】両社ファイルの概念説明図。

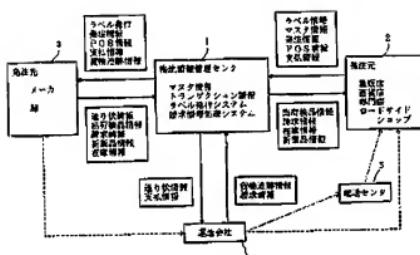
【図17】送り状ファイルの概念説明図。

【図18】発注先端末における動作を示すフローチャート。

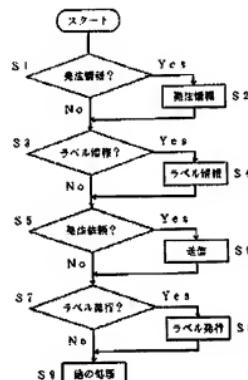
【図19】JAVAアフレットを用いた場合のドライバ

ソフトを中心とした動作を示すフローチャート。

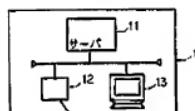
【図1】



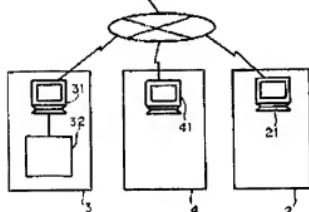
【図3】



【図2】



【図4】



利用者マスター

利用者コード	
利用者名	
住所	
電話番号	
担当者	
取引開始日	
パスワード	

【図7】

小売センターマスター

小売コード	
センターコード	
センター名	
センター固有コード	

小売業者コードマスター

小売コード	
利用者コード	
販売先コード	
取引先名	
取引先固有コード	

【図8】

【図5】

小売マスター

小売コード	
名称	
使用価札種類	
使用POラベル種類	
小売固有コード	住所
	電話番号

【図6】

小売店舗マスター

小売コード	
店コード	
店名	
面門	
ディビジョン	
グループコード	
センターコード	
ロックコード	
小売店舗固有コード	

【図9】

商品分類マスター

小売コード	
部門コード	
ディビジョン	
商系コード	

【図10】

商品マスター

小売コード	
商品コード	
JANコード	
被引用品番	
カラー	
カラーネ	
サイズ	
サイズ名	
年代	
上代	

【図11】

カラーマスター

小売コード	
カラーコード	

【図12】

サイズマスター

小売コード	
サイズコード	
サイズ名	

【図13】

選択会社マスター

選択会社コード	
名称	
使用価札種類	
使用POラベル種類	

【図14】

転札ファイル

利用者コード	
小売コード	
取引先コード	
部門	
クラス	
施設コード	
販売部屋	
取引先部署	
メーカ	
シーズン	
納入年月	
カラー	
カラーネ	
サイズ	
サイズ名	
枚数	
.....	

【図16】

契札ファイル

利用者コード	
販売先	住所 名前 電話番号
配送先	住所 名前 電話番号
メーカー(印)	
店コード	
通送便	
振込	
元/着	
出荷日	
到着日	
結合セ番号	
備註	
備考	
通送日	

【図15】

PDLラベルファイル

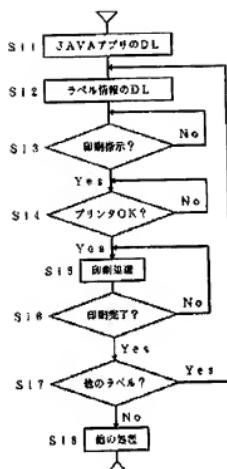
利用者コード	
小売コード	
小売店コード	
納入先	
部門	
ディビジョン	
グループ	
商品分類	
取引先	
発行日	
欄目	
.....	

【図17】

発送状ファイル

利用者コード	
販売先	住所 名前 電話番号
配送先	住所 名前 電話番号
発送セ番号	
元/着	
発送日	
配達日	
振込	
枚数	
量数	
備考	

【図18】



【図19】

